

一般社団法人室内環境学会 平成 30 年度 第 1 回通常理事会議事録

日 時：平成 29 年 11 月 17 日（金）16:00～18:30

場 所：(株) アイデック 3 階 会議室

出席者

理事：関根嘉香（理事長）、山口 一、川崎たまみ、鍵 直樹、水越厚史、三宅祐一

オブザーバー：野口美由貴、市場正良

事務局：中島大介（事務局長）、小沼ルミ（会計）、橋本一浩、色摩 操

欠席：松木秀明、篠原直秀、Tin Tin Win Shwe、一條佑介

本理事会は総理事数 9 名のうち過半数である 6 名が出席していることから、定款第 34 条により成立した。また同第 33 条により、本理事会の議長は関根理事長が務めた。

議事次第：

1. 平成 29 年度第 2 回通常理事会議事録 → 承認された。

2. 平成 29 年度決算報告

小沼会計より H29 年度第 4 期会計決算が報告された。H 29 年度収支については 122 万円黒字とのこと。

3. 各委員会報告

各委員長・支部長から以下のように報告があった。

学術委員会：学術委員会および各分科会の活動報告について説明があった（水越学術委員が代理で報告）。

燃焼器具分科会が設立申請時に掲げた書籍出版の進捗状況について意見が交わされた。企画時から年月が経過し、出版は当初より困難な状況にあるのは理解できるが、いずれにしても対処方針を議論して提示すべき、と学術委員会への要望があった。また、燃焼器具分科会の活動報告に H29 年度の活動に関する記述を追記するようこの指摘があり（鍵理事）、修正を依頼することとした。活動費の使途については明確な記載をするよう、野口監事からの指摘もあった（野口監事）。

出版委員会：現在、投稿規定等の改正を検討している。具体的には、①電子メールによる投稿も可能とする、②投稿論文は倫理委員会の審議を経たものするため、投稿票にチェック欄を設ける、等を検討している（川崎委員長）。

標準法認定管理委員会：29 年度は標準法の申請はなかった。新規申請を促進していきたい（鍵委員長）。

事業委員会：9 月開催の JASIS2017 講演会について、当日は 39 名の参加があり盛況な会となったが、例年に比較し来場者は少なかった。原因として、同時期開催の他学会の講演会に同様のテーマがあったこと、講演テーマのインパクトに欠けたことなどが原因と考えている（山口委員長）。講演会のテーマが「微粒子」ならば微粒子分科会と連携をしてみても良かったのでは（鍵理事）。交通費を自ら確保できる演者に依頼しなければならない事情もあり、調整が難しいかもしれないが、今後は分科会との連携も試みたい（山口委員長）。

広報委員会：1 年前から始めた Facebook での情報発信について、閲覧数の多い記事を集計した。図を掲載している記事が上位になる傾向にあった。今後、グラフィカルアブストラクトを掲載することを検討している（学会発表や学会誌掲載記事などのリライト）。Facebook で公開することにはリスクもあるので、よく検討を（山口理事）。実現性も含めて関係者と協議したい（水

越委員長)

社会連携委員会：例年通りの活動であったが、委員会として新しいアクションを起こせないか模索している（三宅委員長）。法人会員からのリクエストを汲み上げてほしい（関根理事長）

九州支部：H29年度も支部主催研究発表会及び講演会を実施した。現在、佐賀における学術大会開催へ向けて積極的な活動を行なっている（市場H29大会長）。

東北支部：H29年度は住宅や河川で放射線実測を行い、その成果を室内環境学会他、3つの学術大会で発表した（関根理事長が代理で報告）。

関西支部：H30年3/29に支部主催の講演会開催を検討している（水越理事）。

4. 平成30年度予算

中島事務局長より、前回の理事会で提示した予算表とは別に、前年度予算との比較ができる収支予算書をH30年度から作成すると報告された。

5. 平成29年度査読者賞

川崎出版委員長より、H29年度査読者賞は出版委員会で選考した結果、熊谷一清会員および中村亜衣会員の2名を推薦することになったと報告された。

6. 平成29年学術大会準備状況

市場大会長より、資料に基づきH29年学術大会の準備状況が説明され、各理事と意見交換された。

- ・ 要旨集について、前回理事会で修正することになった点は修正を加えた。
- ・ 助成金申請に必要な宿泊証明を提出いただいた参加者には、お土産を手渡すことを検討している。
- ・ 吉野ヶ里遺跡見学ツアーは12時開始とし、タイムテーブルを修正する。
- ・ 13日、14日は12:30から軽食を準備する。
- ・ 大会長奨励賞の採点は各座長が担当する。
- ・ 懇親会場への移動には、タクシーを併用することを検討している。
- ・ 要旨集をダウンロードするパスワードを演者へメール送信する。また、パスワードは学会誌20巻2号に掲載する。
- ・ 要旨集に掲載する各分科会報告の原稿提出を篠原学術委員長に促す。
- ・ 展示企業は13社、広告掲載は3社となった。

7. 分科会設立申請

新たに「環境過敏症分科会」の設立が提案された。代表は北條祥子会員、幹事は水越理事。新分科会の概要について、水越理事から以下の通り説明があった。

- ・ シックハウス症候群、化学物質過敏症、電磁過敏症などは発生機序や病態に未解明な点が多い。
- ・ 本分科会ではそれらの発症要因を多く含む室内環境に注目して、調査・研究を重ねる。
- ・ 蓄積されたエビデンスに基づいて、予防・改善の方法を社会に提案していく。

参加理事の賛成多数をもって、「環境過敏症分科会」の設立は承認された。参加メンバーに非会員が多いので入会を促すよう、複数の理事から要望があった。

8. 平成30年学術大会

H30年室内環境学会学術大会について、鍵H30大会長より、東京工業大・大岡山キャンパス（東京都目黒区）で2018年12月6～7日に開催されるとの報告があった。

9. 謝金支払いに関する規程

H29年度会計監査を担当する野口監事より、学会員に支払う謝金について不明瞭な点があるとの指摘があった。これに伴い、謝金に関する規定の原案を事務局が作成することになった。

10. 名誉会員の推挙

名誉会員の推挙について意見交換があった。最終的には理事長が判断する。

11. その他

- ・事務局より平成29年9月～平成29年11月の入会希望者33名（法人会員1社、正会員10名、学生会員22名）のリストが提出され、全員の入会が承認された。
- ・会員動向として、平成29年11月15日時点で正会員360名、法人会員43社（団体）、学生会員55名、シニア会員10名であると報告された。
- ・会員種別と権利について、名誉会員は委員会、支部、分科会、WGでの活動が出来なかったが、今後はこれを認めることとなった。

以上

署名欄

関根嘉香

印

山口 一

印

篠原直秀

印

鍵 直樹

印

水越厚史

印

三宅祐一

印